

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak  
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

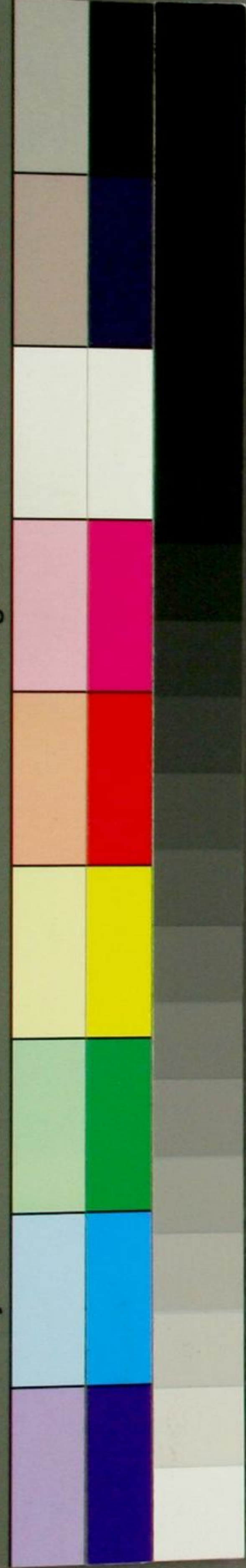
Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



八  
文  
簡  
答

紙

13  
3043  
2



特  
へ13  
3043  
2

美濃舊衣八丈綺談卷之二

東都曲亭馬琴編演

本清

乾為天 不破の関

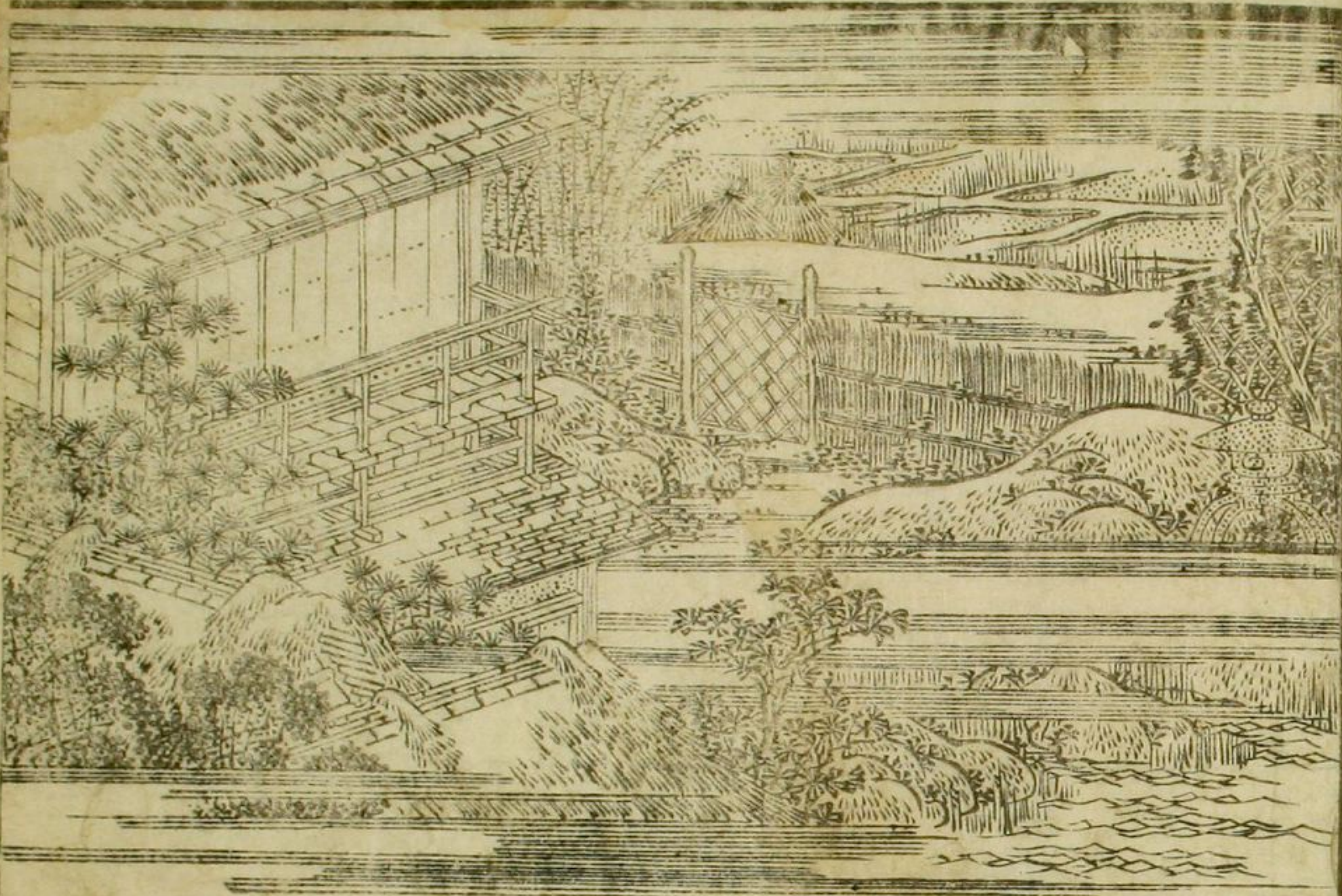


不破の関へ美濃國不破の郡ありし。やがて關の名はゆびくると。關  
 天武天皇の白鳳三年よりとせり。東山道の打城なりとも。後より  
 荒らるるや。歌よみとせり。照月の板庇を漏り。猿渡り。頼座既小年なりて  
 今その蹟は定らるる。後と關が系。大園村関の藤川小川と。關はけりて  
 小川の東より。関がより遠くとも。又芦月一角が奴隸諸平が首領  
 の西より。白木と唱へ。瘦村あり。却説諸平のわら比。合渡林のサ之生  
 謀むと殺殺。彼が守より賜する。金と輕く奪ひとり。こゝに金と合す。

大府夜卷二

の西より





けしと一より日ごとく種くこと右の巻と  
 扱くとしほ。その見物もなれ扱う。母の  
 うれ嬰児を。いほしく子むじらいと不ば  
 少いあることと久後とと憑うこと。  
 餓え死を俟んより。棄むとひひ決て  
 一々女児を懐は抱さう。彼此を徘徊  
 ころよ。村落の富豪早少く。こまよ等  
 くれのころとと乗る子よとと門外  
 擇む。流石よ親の情少く。是首せまほ  
 彼首よや。とまよらる紙ととめあぬ  
 大関村よ敷いあことと友よとと棄るひて

途は関の小門あり。塚傍紙うらうらあり。  
 うの子ととまぐ。揺揚つ。鼓はけくと  
 やをすま。夜の門波いとまに浮世秋の  
 たら風よ。扱とととるれまの為尾花が  
 門よまらるる。當下諸乎へつくと。  
 才化が檐と瞻仰を。忽地よとよやう。  
 この処に豫えくゆ。日か故主の同僚あり。  
 尾花氏の新宅あり。彼人の新宅あり。  
 かんぢがとと愛るりよ。いづる  
 退程まら。困居の人とわたりあり。  
 第一の出歌あり。牧村の婿あり。



十代春

十代春

命こそあはれ後さるるかきこもあふなり。そとすまじくはまらうとて。生涯  
 かてあはれぶとて。夜食よりの缺く人よあつても。男児ひとりありとてあはれ  
 女子あつてうらうらとん。彼此と擇んより。女児がたふ。庇蔭を憑む。この人  
 まとめり。どりひ決し。悪因縁母が乳をのり。護育のあが。あはれ  
 故まう。一角が仇とまら。後。果敢うた。とむ。背負ま。り  
 准後の番と密やう。釋らう。音少や。疲勞らん。睡。安児を  
 驚。とと。懐より。や。と。盛。擔の掛。掛。子。の  
 約垣。た。の。ぼ。た。ゆ。り。泣。親。の。打。水。濡。を。袂。の。う。き。死  
 曉の風八声の鶴と。共。よ。ま。ら。う。安児と。と。捨。を。か。り。け。り。歎。く  
 諸乎。四月が。移。妻。と。喪。ひ。子。と。棄。く。憂。を。や。せ。ん。か。し。と。と。と。と  
 女児。づ。の。人。回。毎。明。白。よ。告。ぐ。て。彼。の。物。怪。の。幸。よ。養。人。と。し。り

のあり。近江の。遣。り。と。い。ひ。ら。め。て。人。の。志。と。里。流。俗。を。と  
 こ。又。嫁。姑。と。る。の。あり。諸乎。その。明年。因。と。い。後。妻。と。娶。り。と  
 あり。三年。と。い。ふ。春。の。比。男。児。の。産。せ。よ。け。と。と。と。諸。太。郎。と。名。づ。け。り。  
 あり。その。年。の。雷。鳴。月。は。山。洪。水。い。て。出。く。白。木。の。一。郵。大。く。屋。に。腰。と  
 洗。と。れ。と。命。危。と。と。と。諸。平。が。宿。所。の。山。紙。う。ま。く。殊。は。低。さ  
 知。ら。れ。づ。い。づ。く。脱。ぶ。死。子。紙。逆。さ。ぬ。う。け。抱。き。夫。婦。孫。山。は。逃。登。り。つ。  
 辛。さ。く。恙。け。け。と。あ。へ。蹟。う。流。さ。と。と。物。ひ。と。残。さ。う。も。あ。と。と  
 稻。葉。山。より。う。り。比。二。十。五。金。の。本。銭。あり。此。彼。は。用。ひ。よ。け。と。と。と。十。二。金  
 餘。の。貯。禄。あり。紙。と。と。と。か。流。さ。と。と。本。代。の。後。の。枝。と。失。ひ。澤。派。の。蟹。の  
 穴。と。毀。と。る。と。ら。ら。進。退。と。と。究。ま。ぬ。輪。廻。を。報。の。と。う。ら。か。う。あ。と。と。と  
 と。と。と。足。る。と。と。ぬ。心。より。曇。は。謀。め。と。殺。し。と。奪。ひ。と。と。と。金。の。数

そんまゝ此度失ひし。執事の事とところ致さるる平るはあつてりけり。と  
おぼえしはらるるは。悔しく多と今さらはとるぬりのく。を  
よりおぼえしはらるる。木を伐草刈つても。不足念仏唱せと。会する  
休やとあつて。そんまゝに。形むりけり。白屋紙締く。けては  
月日紙送る。後よ。次の年の夏の比女房。馬は柴と負さると。膝頭を  
蹴折くと。刺肩骨と蹂躪と。と。生涯半身遂ふ。此彼の療用よ。  
生活の便着と失ひ衣食の綱と。憑つる。檜山と人又。信く。いと  
細紙本紙と。つくづく。多人の。杖と折成。一駄の薪と。資  
負ひく。関の小川。西東へ。今須の驛野上の里。垂井。藍川乃。わたり。  
日毎。こと紙賣。あつて。妻へ。廢人なり。起居も。夫の。習  
し。石櫃は。ぬりぬ。ぬ。稚児と。うちまうせん。便る。死。あつて。

薪の上は刺衣と布と。今茲。つら。二。諸太郎を。拾りの。生  
出。故を。問。その。人。紙。薪。買。い  
。諸平。と。稚児。本。紙。辛。世。塩。竈。乃  
浦。朝。の。煙。の。價。と。獲。り。けり。先。尾。花。才。化。ひ。も。か。け。り  
。門。へ。女。見。と。捨。て。り。三。四。個。月。百。日。あ。ま。り。や。せ。乳。顔。の。と。愛  
。と。膚。へ。紙。延。る。と。ゆ。り。の。か。る。見。と。ひ。つ。く。と。棄。り。え。る  
。痛。す。と。正。首。よ。夫。婦。の。居。膝。置。と。驚。む。と。小。桔。枝。が。乳。乃。と  
。と。死。一。子。才。三。郎。ハ。や。四。才。は。り。ぬ。と。小。桔。枝。が。乳。乃。と  
。酒。ね。が。養。ふ。と。伊。り。あり。こ。の。子。が。小。葉。下。れ。と。脱。と。因。縁。を  
。結。朝。輝。の。紙。里。正。は。告。と。明。白。は。養。ひ。と。つ。と。さ。る。と。





八丈紙書卷二



匿し。まぐもむの。死つらね。猪手。昔月。一角。又。由縁。あり。め。な。き。と。と。  
才也。小桔。杖。も。その。死。ま。つ。後。く。老。く。む。び。く。又。つ。き。ん。る。は。け。世。よ。  
病。命。る。め。の。と。く。憐。む。こ。ろ。深。く。り。け。り。か。く。く。春。も。年。々。と。て。天。文。も。  
た。や。十。一。年。又。り。又。り。時。は。才。三。郎。十。二。歳。か。駒。の。年。十。な。と。此。彼。共。り。  
愛。敬。づ。れ。り。月。の。つ。ら。五。日。の。影。花。る。と。く。梢。の。合。後。の。多。香。も。か。量。り。と。人。と。  
譽。親。と。誇。る。才。三。か。駒。の。一。對。の。雛。人。形。は。異。つ。ら。む。と。禪。杖。の。敷。と。む。と。君。の。  
こ。が。使。よ。こ。が。頼。よ。と。く。誰。論。ね。ど。高。安。の。面。衣。う。り。と。筒。井。筒。の。死。縁。と。  
あ。ひ。つ。ら。二。親。の。豫。と。り。玉。の。罐。は。金。の。硬。只。その。ま。小。結。び。を。と。く。末。を。  
む。ら。よ。の。ま。や。と。や。よ。つ。り。く。ま。る。せ。ぬ。め。の。か。駒。が。右。の。巻。之。世。又。支。指。と。  
ふ。め。の。あり。又。龜。の。ま。ご。り。の。あ。と。と。そ。の。生。得。一。騎。人。なり。か。駒。が。巻。へ。さ。る。  
類。は。あ。と。む。ど。人。の。ま。ご。り。と。小。生。と。ゆ。く。掘。り。こ。ろ。の。披。ぶ。る。と。や。ふ。あり。と。

才也。醫師。又。同。奇。甚。其。常。也。年。來。を。紙。彈。し。こ。る。その。驗。は。む。と。と。也。た。り。不。  
ぞ。ひ。捨。が。て。有。一。日。小。桔。杖。は。對。と。り。や。う。大。約。兜。の。生。と。と。り。その。の。紙。  
と。く。と。の。死。よ。數。百。年。紙。歷。る。墳。の。壞。と。り。く。洗。よ。と。死。へ。立。地。は。效。  
あり。と。唐。の。書。藉。め。と。死。し。こ。が。因。俗。と。い。ふ。と。う。紙。を。と。り。と。と。踏。む。と。  
さ。の。ま。つ。ら。の。死。不。為。う。が。り。既。よ。こ。の。奇。病。あり。と。その。方。う。と。と。い。は。は。  
幸。ら。う。ら。當。國。よ。美。濃。の。尾。山。の。古。墳。あり。道。の。程。と。ま。う。く。後。に。羽。豆。の。  
つ。と。と。く。彼。奴。は。死。後。塚。の。壞。を。取。り。と。く。その。效。驗。を。試。え。割。符。の。准。依。  
志。多。く。と。く。小。桔。杖。沈。吟。し。と。さ。の。ま。つ。ら。の。ま。ご。り。と。因。果。塚。へ。い。り。下。り。  
塚。の。鬼。の。崇。あり。と。と。く。訪。る。人。も。う。り。と。紙。を。と。り。と。う。の。く。ゆ。り。と。と。と。と。と。  
彼。墳。の。祈。子。なり。と。と。ゆ。の。と。と。昔。月。氏。の。家。も。後。と。り。又。その。の。の。の。の。の。  
執。し。ま。う。世。と。あり。と。墳。を。崇。め。寺。を。建。ん。と。守。の。お。ん。沙。汰。あり。と。と。

ことごとく疎疎まじりて。その止むと釋は比母のむがりやはあるとあり。  
 さらる魔所よあつとどとそそりもあつぬ深山の悪鬼のまじりぬとあり。  
 人もあつる古墳へ出づ死あつと危し。みぐりて你念まあつとありとあり。  
 才傑へ呵ことうら笑ひ奇孤好む俗の常情樵夫牧童亦各自尾端の  
 怪談は笑懼し。うら死に孤宮ふる。むん力に武士の女兒は其妻の  
 やつとあり。件の尾山に樹木あつとあり。里と去と遠くとあり。或はあつとあり。中山とあり。  
 雞壘の二は鄰は。松山見へ一目も。下上せざるこし。晴る日よあり。眼  
 前はえゆめみ孤うごへおととあり。心やとあり。あひあつとあり。再び  
 疎うとあり。甲夜より割をと調は才傑へ結且八声の鶴とあり。花は花とあり。  
 力かろくお拾骨は西口の刀を降も。一世の秋金引提をさうと載さうとあり。  
 堀橋より北とあり。野成教里を過る。日此一傾く比を尾山の麓  
 登りし時。今十月の初旬あり。その時の時雨霽る。苔滑は露露深で。動  
 とあり。杖と上りし面孤う。山風は母又は冷うとあり。北月より行孤流し。  
 仰れば青壁刀の削とあり。直下は毒葉核とあり。嶽は似とあり。登ると  
 数町あり。墳のやとあり。あつとあり。一坏の土饅頭果とあり。孤鬼荒  
 草の裡はかくと藹とあり。白楊は枯とあり。萩は青塚とあり。覆ふとあり。  
 時は寒煙前後と埋め。山氣丘壠と掩ふ。悲心ふる生と死と。貴賤百歳の人々。  
 北邱千秋の墓あり。この墳あり。柏芒寺の蹟はあつとあり。この墳  
 あり。後の好海を懲とあり。因果の道理眼前げとあり。この墳  
 あり。杖あり。思ふと嗟嘆あり。かろくあり。死あり。この墳  
 あり。命あり。秋あり。直あり。再びあり。掘起とあり。壊れとあり。小墳動は地墳小

八ノ奇談巻二

九

〇山崎





この繡像の巻  
おしりしき二守も  
解分るとは編末  
至る當り水解

諸平



因果塚  
諸平才作

才作

八丁新書卷二

物と挑めりてふもや。嘔吐し吐き声も。いふもこころは。とまてくの中へ。  
とさるかうとさる。取れど。底あぐりく。黒白とく。縁由を定む。ふ  
人ありく。空へ降りたる。疑ひは。救ひ出く。縁故をゆゑ。やとおひひく。  
上より。きやく。ひびけく。さる人ありく。紙あぐり。要肩より。釣糸を。  
坂の中へ。裸あぐり。とく。糸より。糸より。思ひ。手へ。吐き。才代。左右の  
糸。毒蛇と蜘蛛と。柱つ。十の指より。とま。うけ。受け。接る人のありと。さ。五  
索より。思ひ。さる。と。か。く。諸平へ。頻。す。小焦燥。く。嗟。夫。の。は。や。と。吐。死。つ。  
ひやく。引く。釣糸。と。糸。と。よ。才代。が。帯の。結。目。引。け。く。さ。さ。さ。さ。  
力を極め。倒。ま。つ。る。樹。は。巻。ま。せ。く。衝。と。引。く。後。才代。が。力。傷。く。と。毒。  
蛇と蜘蛛と。左右の。腋。小。林。足。と。抱。き。と。め。る。儘。穴。と。出。し。ど。と。匆。急。地。は  
氣。終。し。ふ。諸。平。の。慌。忙。と。ひび。活。ん。と。く。その。人。と。と。め。く。と。と。か。ひ。ひ。

いひるれ。その。花。主。の。尾。花。氏。こ。く。り。り。と。再。び。解。れ。石。湯。と。掬。ひ。て。顔。  
吹く。と。さ。る。ぐ。は。勦。る。ふ。ぞ。才代。の。や。う。や。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
息。張。つ。れ。救。ひ。し。ん。と。え。く。く。く。く。豫。々。相。識。る。柴。賣。う。と。ぶ。その。軟。び。の。し。ん。  
ま。ま。と。感。涙。と。拭。ひ。ゆ。ゆ。と。抑。和。主。の。つ。よ。と。こ。が。空。へ。墮。ら。れ。紙。を。や。も。き。ゆ。  
助。け。の。ひ。こ。の。再。生。に。恩。恵。ふ。こ。と。と。い。ふ。小。諸。平。の。豹。頭。改。め。折。り。の。あ。つ。と。り。え。  
け。い。人。の。僱。と。く。との。山。の本。狐。伐。る。程。は。俄。頃。は。風。暴。と。地。震。て。須。臾。も。た。さ。  
と。は。ぶ。や。が。く。と。紙。も。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
お。が。の。亦。竹。木。の。れ。よ。こ。の。空。へ。墮。り。ひ。し。と。ろ。ろ。ろ。ろ。と。同。じ。く。尾。花。の  
今。さ。ら。は。鐸。の。執。置。か。さ。く。か。駒。が。あ。る。古。墳。の。壤。を。取。り。よ。ろ。つ。る。の。と。墳。の  
崩。し。の。毒蛇。と。蜘蛛。の。つ。よ。と。首。尾。と。視。ま。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
原來。その。人。の。駒。が。右。の。龜。と。不。医。療。を。尽。せ。と。弾。し。倦。む。深。山。よ。と。け。り。又









秘めたる塚の鬼の祟りごとく親獲とたつてやどらばと果て頭...  
 おん方々異見の常言よの女にまじりてそのまじりたる牛...  
 繼との硯の... せいのその沙汰あもぶとく...  
 守へ進とせらる孰る指とつらざる死人の妬忌の頓さる...  
 仕と致し。弓筋致拾と十餘年かたよりやとく世...  
 痛く。ごご子の為よ竹... 足ると成と死に富むといふも...  
 官途の... 毎よ心くる。死の... はんも又つととと...  
 人とむる後... 才三郎由余... 敬園あつと...  
 喻まると物... 自憐... 後終... 筆... 命危くも... 果...  
 ぐれ枉屈の... ね妻... 強て...

疎る... かくその夜... 親子... 才三郎...  
 才三郎因果塚の壤... 駒が右の... 奇なり...  
 より。振る... 一夜の東風南枝... 梅まづ一...  
 啼るが如く... 球... 裏より西の虫... 形丈...  
 蟬又似く... 青く... 蒲の... 形... 小桔...  
 且... 怪... 彼... 才三郎... 虫を捕...  
 虫... 駒が... 節伸... 小...  
 虫と... 求て何... せん大... 病...  
 瘁石... 虫... みる... 人の病... 官...  
 十六













由縁の人も憑りて己と成りぬごとく。昔月一角が奴隷となりてしごとく。  
 次の年主の一角の尾花才化は替りて。その家お終り。謀めり合渡りて。諸平が  
 為に命を損ひて。十餘年死守るまでと合戦諸國止と死にけり。其里にて  
 老るる。一より死に。謀松の幼稚より。その公の卑く。考心も又人  
 まし。や東西成る。亡母の爲に香花を。後よ。美濃の  
 暮へ。継母の妬は似て。極める。淫婦。ゆりぬ。良人。悲し  
 る。近郷の破落戸。丈八といふ。杜俊と密通。年々幼弱。謀松を  
 情なく罵使ひ。後。骨肉の姨。ひけ。謀松。愚者の中。生育て  
 只。その。奴隷。う。歎。く。愚。者。外。野。死。ぬ。科。謀。松。打。打  
 年。と。三。五。の。上。よ。出。六。六。の。忌。嫌。ひ。外。野。死。ぬ。科。謀。松。打。打  
 さら。と。大。く。後。謀。松。の。呵。責。は。乃。病。命。成。終。死。は。





